



**2021年3月期 第1四半期
決算説明会資料**

2020年7月31日
日本通運 株式会社
経営企画部 IR推進室

目次

I. 2021年3月期 第1四半期業績

A. 2021年3月期 第1四半期決算概要	P.2
B. 日本・海外別実績	P.3
C. セグメント別実績	P.4
D. 売上高・営業利益増減内訳	P.5-

II. 2021年3月期 業績予想

A. 2021年3月期 通期予想	P.7-
B. 日本・海外別予想	P.9
C. セグメント別予想	P.10
D. 売上高・営業利益増減内訳	P.11-
(参考) 個別 総人件費の増減 (予想)	P.13

III. 2021年3月期 セグメント概況

A. 日本セグメント	P.14
B. 米州セグメント	P.15
C. 欧州セグメント	P.16
D. 東アジアセグメント	P.17
E. 南アジア・オセアニアセグメント	P.18
F. 警備輸送セグメント	P.19
G. 重量品建設セグメント	P.20
H. 物流サポートセグメント	P.21

IV. 日通グループ経営計画2023 KPI

A. 日通グループ経営計画2023 KPI <コア事業の成長戦略>	P.22
B. 日本事業の強靱化戦略	P.23

V. 株主還元

A. 資本政策	B. 各種実績推移	P.24
---------	-----------	------

補足資料

(補足1) 2021年3月期 第1四半期業績	
A. 外部環境の変化およびその他の変動要素	P.26-
B. コロナウイルス感染拡大による影響(個別)	P.29
C. 重点産業の取扱い推移(対前売上高比率)	P.30
D. 日本・海外でのコスト削減の取り組み (2021年3月期第1四半期、以降の取り組み内容)	P.31-
(補足2) 2021年3月期 業績予想 外部環境の変化およびその他の変動要素(予想)	P.33-
(補足3) 日本発 輸出航空貨物 重量動向	P.37
(補足4) 輸出貨物動向(航空)	P.38
(補足5) 輸出貨物動向(海運)	P.39
(補足6) 個別利益増減(FY2021 1Q)	P.40
(補足7) 個別利益増減(FY2021 見通し)	P.41

I. 2021年3月期 第1四半期業績

A 2021年3月期 第1四半期決算概要

1. 概要(連結)

(単位: 億円、%)

項目	2021/3期 1Q実績	2020/3期 1Q実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)	上期予想 (今回発表)	差額	達成率
売上高	4,720	5,197	△477	△9.2	9,600	4,880	49.2
営業利益	44	106	△61	△57.9	165	121	27.1
経常利益	63	131	△68	△51.9	190	126	33.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	96	72	23	32.0	190	93	50.6

(億円未満切捨て)

2. 連結経営指標(前年同期実績)

項目	2021/3期 1Q実績	2020/3期 1Q実績	項目	見直し (ご参考)	2020/3期 実績
売上高営業利益率	0.9%	2.0%	ROA	2.2%	1.1%
売上高経常利益率	1.3%	2.5%	ROE	6.1%	3.2%

(注) 当期純利益は通期予想、自己資本および総資産は、前連結会計年度と
当期連結会計期間の平均値を使用し、算出しております。

Copyright © 2020 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2021年3月期 第1四半期決算説明会資料

2

・新型コロナウイルス感染症の拡大に際し、社員の感染防止と感染症の拡大防止に努めた上で、社会的な物流インフラとしての責務を果たし、お客様のサプライチェーンの維持を第一に、全力をあげて取り組んでまいりました。

・感染症の拡大による、世界規模での経済活動の停滞は、当社の連結業績に大きく影響し、対前年で減収、営業利益および経常利益が減益となりました。

・当期純利益は、不動産流動化に伴う物流センター売却、政策保有株式売却などにより増益となりました。

I. 2021年3月期 第1四半期業績

B 日本・海外別実績（調整額含まず）

（単位：億円、％）

セグメント	項目	2021/3期 1Q実績	2020/3期 1Q実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)	上期予想 (今回発表)	差額	達成率
日本計	売上高	4,050	4,488	△437	△9.7	8,248	4,197	49.1
	セグメント利益	58	98	△40	△40.8	177	118	33.1
海外計	売上高	964	1,034	△70	△6.8	1,979	1,014	48.7
	セグメント利益	14	29	△14	△50.3	54	39	27.4

（億円未満切捨て）

海外売上高比率

19.2%

I. 2021年3月期 第1四半期業績

C セグメント別実績

(単位:億円、%)

セグメント	項目	2021/3期 1Q実績	2020/3期 1Q実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)	上期予想 (今回発表)	差額	違抄率
日本	売上高	2,733	3,025	△291	△9.7	5,631	2,897	48.5
	セグメント利益	23	73	△49	△67.7	101	77	23.4
米州	売上高	205	240	△34	△14.4	382	176	53.8
	セグメント利益	△0	8	△8	—	△1	△0	—
欧州	売上高	274	298	△24	△8.2	527	252	52.1
	セグメント利益	2	7	△4	△64.6	1	△1	—
東アジア	売上高	265	275	△9	△3.6	579	313	45.9
	セグメント利益	5	6	△1	△20.2	21	15	24.0
南アジア・ オセアニア	売上高	218	219	△1	△0.6	491	272	44.5
	セグメント利益	7	7	△0	△3.8	33	25	21.8
警備輸送	売上高	169	184	△14	△8.1	343	173	49.3
	セグメント利益	△8	△11	3	—	△11	△2	—
重量品建 設	売上高	131	133	△2	△1.9	273	141	48.2
	セグメント利益	15	10	4	45.9	36	20	43.0
物流 サポート	売上高	1,017	1,145	△128	△11.2	2,001	983	50.8
	セグメント利益	27	27	0	2.4	51	23	54.4

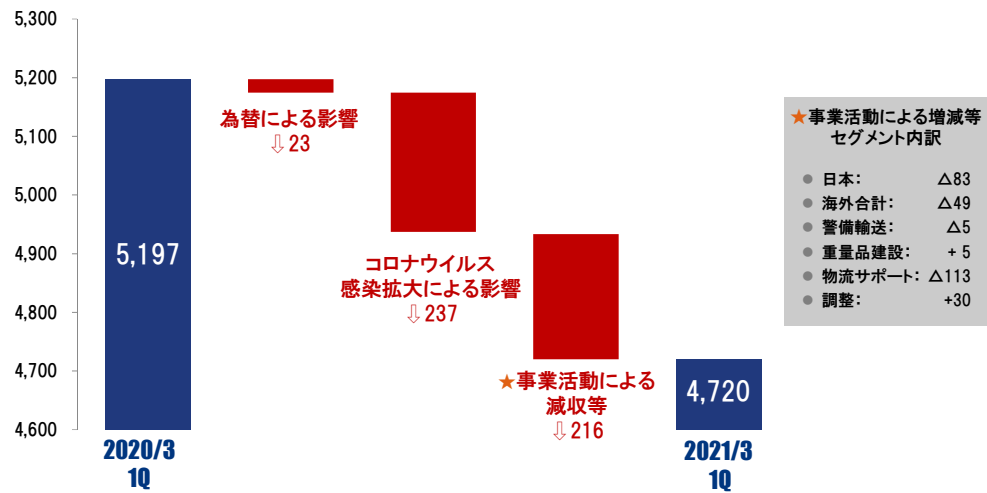
(億円未満切捨て)

I. 2021年3月期 第1四半期業績

D 売上高・営業利益増減内訳

1. 売上高

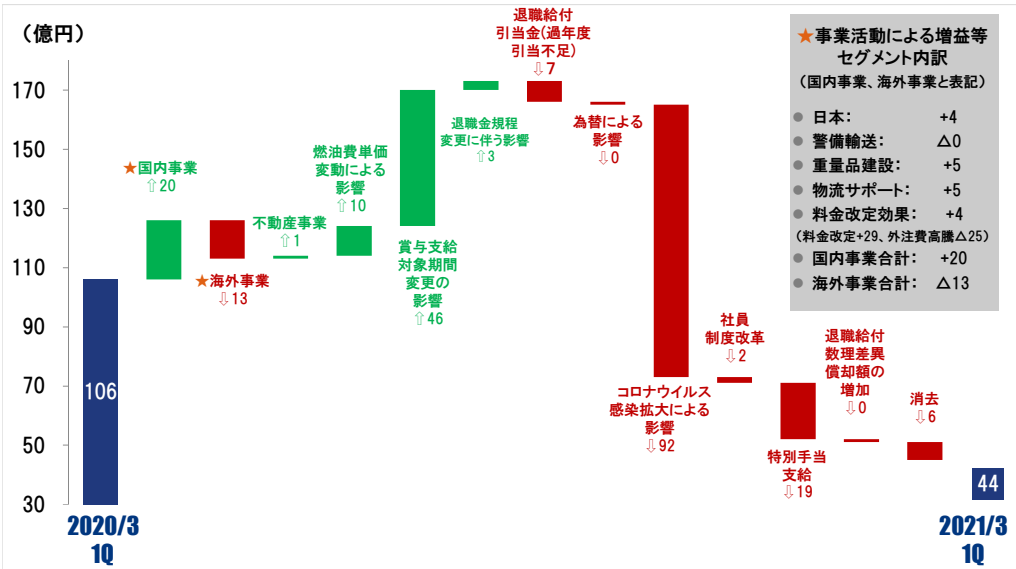
(億円)



I. 2021年3月期 第1四半期業績

D 売上高・営業利益増減内訳

2. 営業利益



II. 2021年3月期 業績予想

A 2021年3月期通期予想

項目	2021年3月期 予想	2022年3月期 (中間目標)
売上高	2兆円	2兆2,500億円
営業利益	450億円	830億円
営業利益率	2.3%	3.7%
親会社株主に 帰属する当期純利益	330億円	540億円
海外売上高	4,053 億円	5,200億円
ROE	6.1%	9%

- ・ 売上高は2兆円、対前年で、△803億円の減収。
営業利益は450億円、対前年、△142億円、経常利益は490億円、
対前年で△84億円の減益を見込む。
- ・ 当期純利益については、前年のイタリア・トラコンフ社の減損処理の反動影響などにより、対前年で、155億円の増益となる、330億円とした。
- ・ コストダウンについては、従来の取り組みを更に強化し、取扱数量に応じた適正な車両および人員配置や、社有戦力を最大限活用することによる外注費低減などの効果が出ている。更なるコスト削減を進めてゆく。

II. 2021年3月期 業績予想

A 2021年3月期通期予想

(単位: 億円、%)

項目	上期			下期			通期		
	2021/3 予想	2020/3 実績	増減額 (増減率)	2021/3 予想	2020/3 実績	増減額 (増減率)	2021/3 予想	2020/3 実績	増減額 (増減率)
売上高	9,600	10,389	△789 (△7.6)	10,400	10,413	△13 (△0.1)	20,000	20,803	△803 (△3.9)
営業利益	165	291	△126 (△43.4)	285	300	△15 (△5.3)	450	592	△142 (△24.0)
営業利益率	1.7	2.8	—	2.7	2.9	—	2.3	2.8	—
経常利益	190	328	△138 (△42.1)	300	246	53 (21.9)	490	574	△84 (△14.7)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	190	190	△0 (△0.1)	140	△16	156 (—)	330	174	155 (89.6)

(億円未満切捨て)

II. 2021年3月期 業績予想

B 日本・海外別予想（調整額含まず）

（単位：億円、％）

セグメント	項目	通期予想	2020/3期 実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)	【参考】 2022年3月期 中間目標
日本計	売上高	17,213	18,097	△884	△4.9	19,300
	セグメント利益	488	603	△115	△19.1	690
海外計	売上高	4,053	4,125	△72	△1.8	5,200
	セグメント利益	89	107	△18	△17.0	200

（億円未満切捨て）

海外売上高比率

19.1%

II. 2021年3月期 業績予想

C セグメント別予想

(単位: 億円、%)

セグメント	項目	通期予想	2020/3期 実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)	【参考】 2022年3月期 中間目標
日本	売上高	11,672	12,135	△463	△3.8	13,000
	セグメント利益	331	428	△97	△22.8	520
米州	売上高	817	910	△93	△10.3	1,200
	セグメント利益	1	27	△26	△96.4	62
欧州	売上高	1,072	1,193	△121	△10.2	1,350
	セグメント利益	3	17	△14	△83.1	46
東アジア	売上高	1,192	1,120	71	6.4	1,500
	セグメント利益	36	29	6	20.3	41
南アジア・ オセアニア	売上高	972	901	70	7.9	1,150
	セグメント利益	49	31	17	55.3	51
警備輸送	売上高	700	725	△25	△3.6	750
	セグメント利益	△12	△10	△1	—	3
重量品建設	売上高	509	523	△14	△2.8	500
	セグメント利益	60	61	△1	△3.1	40
物流 サポート	売上高	4,332	4,712	△380	△8.1	5,050
	セグメント利益	109	123	△14	△11.8	127

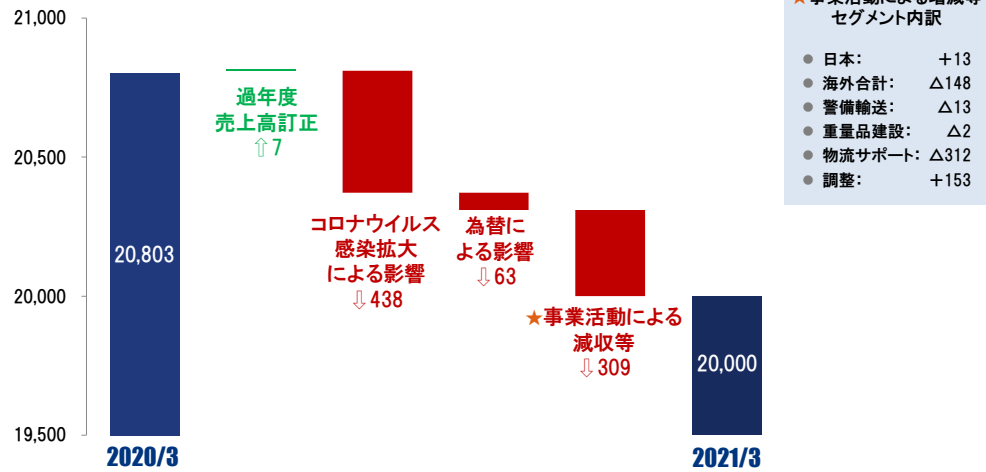
(億円未満切捨て)

II. 2021年3月期 業績予想

D 売上高・営業利益増減内訳

1. 売上高

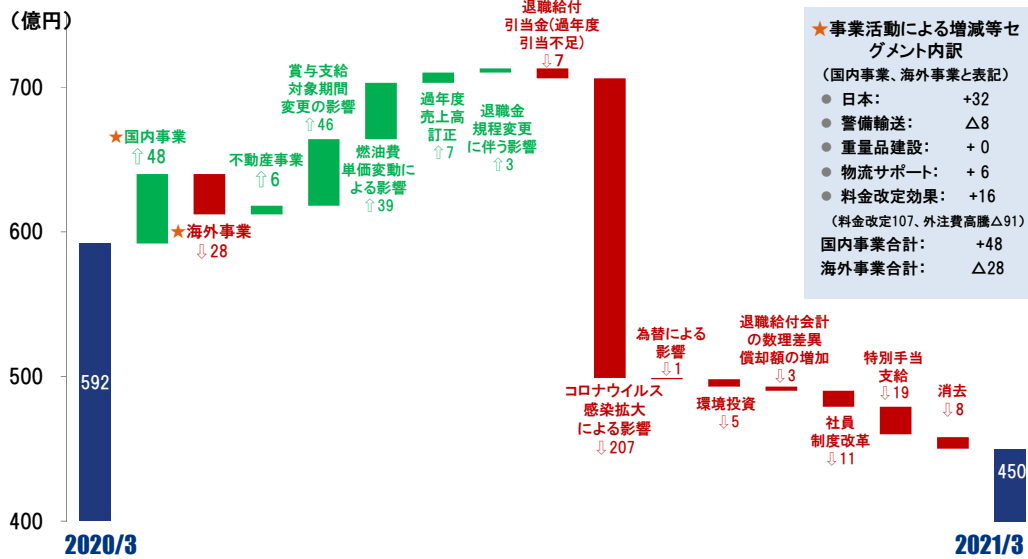
(億円)



II. 2021年3月期 業績予想

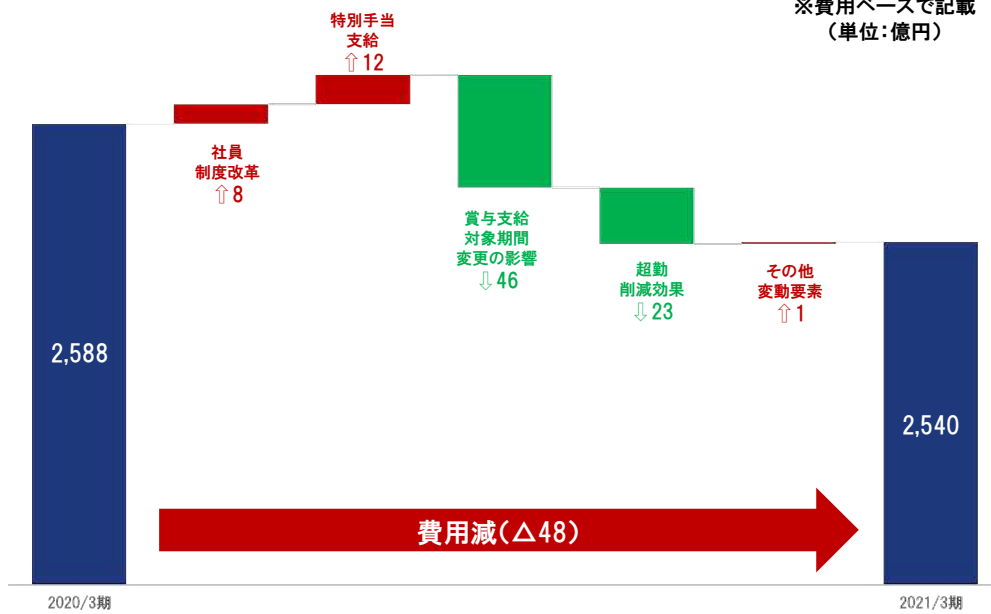
D 売上高・営業利益増減内訳

2. 営業利益



(参考) 個別 総人件費の増減 (予想)

※費用ベースで記載
(単位:億円)



III. 2021年3月期 セグメント概況

A 日本セグメント

(単位: 億円、%)

1. 1Q単四半期実績

項目	2021/3期 1Q実績	前年同期対比		
		2020/3期	増減額	増減率
売上高	2,733	3,025	△291	△9.7
営業利益	23	73	△49	△67.7
営業利益率	0.9	2.4	-	-

1Q概況

鉄道事業、自動車事業共に、鉄鋼・自動車関連の荷動きが低調であった。またコロナウイルス感染症拡大の影響により鉄道事業では飲料、紙・パルプ関連の輸送数量が減少した。航空輸送事業では、半導体関連の出荷、医薬品の輸送等緊急輸送の需要を受託するも、出荷を手控える傾向にあり、全体数量は減少した。倉庫・保管庫事業、工場内事業は堅調に推移したが、減少分をカバーできず減収、減益となる。

2. 単四半期実績推移

項目	2021/3期 実績・見通し						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	2,733	2,897	5,631	-	-	6,041	11,672
営業利益	23	77	101	-	-	230	331
営業利益率	0.9	2.7	1.8	-	-	3.8	2.8

項目	2020/3期 実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期
売上高	3,025	3,077	6,103	3,082	2,950	6,032	12,135
営業利益	73	132	205	118	104	222	428
営業利益率	2.4	4.3	3.4	3.8	3.5	3.7	3.5

項目	前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	△291	△180	△472	-	-	8	△463
	△9.7	△5.9	△7.7	-	-	0.1	△3.8
営業利益	△49	△55	△104	-	-	7	△97
	△67.7	△41.7	△50.9	-	-	3.3	△22.8

特殊要因

- ・燃油費単価の減少:【営業利益】+8(1Q)、+33(年間)
- ・退職給付数理差異影響:【営業利益】△0(1Q)、△3(年間)
- ・退職金規定変更に伴う影響【営業利益】+3(1Q、年間)
- ・賞与支給対象期間の変更:【営業利益】+35(1Q、年間)
- ・社員制度改革に伴う費用増:【営業利益】△2(1Q)、△8(年間)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響:
【売上高】△208(1Q)、△485(年間)
【営業利益】△80(1Q)、△187(年間)
- ・退職給付引当金:【営業利益】△7(1Q、年間)
- ・特別手当支給の影響:【営業利益】△15(1Q、年間)
- ・環境投資:【営業利益】△5(年間) ・過年度売上高訂正:+7(2Q)
- ・不動産事業:【営業利益】+1(1Q)、+6(年間)

見通し概況

倉庫・保管庫事業、工場内事業は、引き続き堅調に推移する見通し。その他の事業では、コロナウイルス感染症拡大の影響により上期は苦戦するも下期は前年並みを見通す。

・日本につきましては、鉄鋼および自動車産業関連の荷動きが低調だったほか、感染症拡大に伴う海外引越の延期やキャンセル、鉄道事業での飲料、紙・パルプ関連の輸送量減少などにより、減収減益となる。

III. 2021年3月期 セグメント概況

B 米州セグメント

(単位: 億円、%)

1. 1Q単四半期実績					1Q概況		
項目	2021/3期 1Q実績	前年同期対比			2020/3期	増減額	増減率
		2020/3期	増減額	増減率			
売上高	205	240	△34	△14.4			
営業利益	△0	8	△8	-			
営業利益率	△0.0	3.6	-	-			

米中貿易摩擦並びにコロナウイルス感染症拡大の影響を受け、前年から取扱い減少の傾向であった。倉庫、自動車運送、航空貨物等、ほぼ全ての扱いで減収となった。製造ライン設備の緊急輸送といったスポットでの取扱いを受注したが、荷扱いの減少が大きく減収、減益となる。

2. 単四半期実績推移								特殊要因	
項目	2021/3期 実績・見通し							通期予想	通期予想
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想		
売上高	205	176	382	-	-	435	817		・為替影響(円高): 【売上高】△2(1Q)、△9(年間) 【営業利益】△0(1Q)、△0(年間)
営業利益	△0	△0	△1	-	-	2	1		・新型コロナウイルス感染症拡大の影響: 【売上高】+0(1Q)、△28(年間) 【営業利益】+0(1Q)、△11(年間)
営業利益率	△0.0	△0.5	△0.3	-	-	0.5	0.1		・特別手当支給:[営業利益]△0(1Q、年間)

項目	2020/3期 実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期
売上高	240	237	477	219	213	433	910
営業利益	8	10	19	7	1	8	27
営業利益率	3.6	4.5	4.0	3.4	0.6	2.0	3.1

項目	前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	△34	△60	△95	-	-	1	△93
	△14.4	△25.7	△20.0	-	-	0.5	△10.3
営業利益	△8	△11	△20	-	-	△6	△26
	-	-	-	-	-	△76.9	△96.4

・米州は、感染症拡大の影響を受けたことや、米中貿易摩擦等で、前年から低調だった航空、海運扱いが更に悪化し、ロックダウンによる域内配送や倉庫業の稼働低下もあり、減収減益となる。

III. 2021年3月期 セグメント概況

C 欧州セグメント

(単位:億円、%)

1. 1Q単四半期実績

項目	2021/3期 1Q実績	前年同期対比		
		2020/3期	増減額	増減率
売上高	274	298	△24	△8.2
営業利益	2	7	△4	△64.6
営業利益率	0.9	2.4	-	-

1Q概況

海運輸出では、自動車関連の取扱いが堅調で対前同増収となるも、航空輸出は欧州国内の不況の影響が継続したこと、加えて前年のスポット反動が大きく取扱いは減少となる。また新型コロナウイルス感染症拡大の影響により欧州発アジア向けのハイファッションの取扱いが減少し減収、減益となる。

2. 単四半期実績推移

項目	2021/3期 実績・見通し						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	274	252	527	-	-	545	1,072
営業利益	2	△1	1	-	-	2	3
営業利益率	0.9	△0.6	0.2	-	-	0.4	0.3

項目	2020/3期 実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期
売上高	298	289	588	294	310	604	1,193
営業利益	7	4	12	4	1	5	17
営業利益率	2.4	1.7	2.1	1.4	0.4	0.9	1.5

項目	前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	△24 △8.2	△37 △12.9	△61 △10.5	-	-	△59 △9.9	△121 △10.2
営業利益	△4 △64.6	△6 -	△11 △91.8	-	-	△3 △63.7	△14 △83.1

特殊要因

- ・為替影響(円高):
【売上高】△9(1Q)、△17(年間)
【営業利益】△0(1Q)、△0(年間)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響:
【売上高】△2(1Q)、△53(年間)
【営業利益】△0(1Q)、△18(年間)
- ・特別手当支給:【営業利益】△0(1Q、年間)

見通し概況

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、生産活動の停止、ロックダウンの影響による消費活動の減退の影響を受け、売上高の減少は第2四半期、下期も続く見込み。

・欧州は、自動車産業関連が堅調で海運扱いが増加しましたが、欧州内の不況の継続や、感染症拡大の影響などから、アジア向け高級アパレルの取り扱いが減少し、減収減益となる。

III. 2021年3月期 セグメント概況

D 東アジアセグメント

(単位:億円、%)

1. 1Q単四半期実績

項目	2021/3期 1Q実績	前年同期対比		
		2020/3期	増減額	増減率
売上高	265	275	△9	△3.6
営業利益	5	6	△1	△20.2
営業利益率	1.9	2.3	-	-

1Q概況

1月の春節以降、コロナウイルス感染症拡大の影響により、全体的に大きく売上減となった。3月に入り中国国内の顧客は徐々に稼働を再開、チャーター輸送(航空輸出の取扱い)が寄与したものの、減少分をカバーできず減収、減益となる。

2. 単四半期実績推移

項目	2021/3期 実績・見通し						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	265	313	579	-	-	613	1,192
営業利益	5	15	21	-	-	15	36
営業利益率	1.9	5.1	3.6	-	-	2.4	3.0

項目	2020/3期 実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期
売上高	275	283	559	281	279	561	1,120
営業利益	6	9	15	8	5	14	29
営業利益率	2.3	3.3	2.8	3.2	1.9	2.5	2.7

項目	前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	△9	29	19	-	-	51	71
	△3.6	10.4	3.5	-	-	9.2	6.4
営業利益	△1	6	5	-	-	0	6
	△20.2	71.4	34.4	-	-	4.9	20.3

特殊要因

- ・為替影響(円高):
【売上高】△8(1Q)、△19(年間)
【営業利益】△0(1Q)、△0(年間)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響:
【売上高】+1(1Q)、+128(年間)
【営業利益】△0(1Q)、+29(年間)
- ・特別手当支給:【営業利益】△0(1Q、年間)

見通し概況

コロナウイルス感染症拡大の影響により、輸出入共に影響を受けるも、医療機器、PC・PC周辺機器の輸出といった復興需要の取り込みを見通す。一方でアパレルの取扱いは伸び悩んでおり、経済の完全回復にはまだ時間を要する見込み。第2四半期以降はコロナウイルスの封じ込め成果をあげており、増収を見込む。

・東アジアは、中国において、一部の都市で実施されたロックダウンが、3月以降に徐々に緩和され、生産活動は正常化に向かい、当社の業績も回復傾向となりましたが、2月までの落ち込みが大きく、減収減益となる。

III. 2021年3月期 セグメント概況

E 南アジア・オセアニアセグメント

(単位: 億円, %)

1. 1Q単四半期実績

項目	2021/3期 1Q実績	前年同期対比		
		2020/3期	増減額	増減率
売上高	218	219	△1	△0.6
営業利益	7	7	△0	△3.8
営業利益率	3.3	3.4	-	-

1Q概況

航空・海運輸出ともに取扱いが堅調に推移した。コロナウイルス感染症拡大によるロックダウンにより一部エリアで取扱いが大幅に減少したが、コロナウイルス関連に伴う、緊急出荷(航空輸出等)を一部の国で取り入れたことにより売上高、利益ともに前年並みとなる。

2. 単四半期実績推移

項目	2021/3期 実績・見通し						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	218	272	491	-	-	481	972
営業利益	7	25	33	-	-	16	49
営業利益率	3.3	9.5	6.7	-	-	3.3	5.0

項目	2020/3期 実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期
売上高	219	221	441	230	229	459	901
営業利益	7	8	15	8	7	15	31
営業利益率	3.4	3.8	3.6	3.7	3.2	3.4	3.5

項目	前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	△1	50	49	-	-	21	70
	△0.6	23.0	11.2	-	-	4.6	7.9
営業利益	△0	17	17	-	-	0	17
	△3.8	210.1	108.7	-	-	1.6	55.3

特殊要因

- ・為替影響(円高):
【売上高】△2(1Q)、△17(年間)
【営業利益】△0(1Q)、△0(年間)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響:
【売上高】+3(1Q)、+92(年間)
【営業利益】+0(1Q)、+12(年間)
- ・特別手当支給:【営業利益】△0(1Q、年間)

見通し概況

コロナウイルス感染症拡大によるロックダウンの影響により生産活動の減、運行車両が大幅に減少。一方で南アジア域内発日本向けの輸出航空輸送等、復興需要を第2四半期以降獲得、取扱いの減少をカバーし増収、増益を見通す。

・南アジア・オセアニアは、域内各国のロックダウンの影響を大きく受けましたが、感染症関連の緊急出荷を一部の国で取り入れたことなどにより、売上高、営業利益ともに前年並みとなる。

III. 2021年3月期 セグメント概況

F 警備輸送セグメント

(単位:億円、%)

1. 1Q単四半期実績

項目	2021/3期 1Q実績	前年同期対比		
		2020/3期	増減額	増減率
売上高	169	184	△14	△8.1
営業利益	△8	△11	3	—
営業利益率	△4.9	△6.5	—	—

1Q概況

コロナウイルス感染拡大に伴い、集配金サービスの取扱いが減少したことに加え、一部集配車両の運行回数が減少、更にCSDの入れ替え作業も延期となり、対前同で売上高は減収となる。昨年影響のあった賞与支給対象期間変更がプラスに働き利益面では昨年対比で増益。

2. 単四半期実績推移

項目	2021/3期 実績・見通し						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	169	173	343	—	—	357	700
営業利益	△8	△2	△11	—	—	△1	△12
営業利益率	△4.9	△1.5	△3.2	—	—	△0.3%	△1.7%

項目	2020/3期 実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期
売上高	184	180	364	182	179	361	725
営業利益	△11	△0	△12	△2	4	2	△10
営業利益率	△6.5	△0.5	△3.5	△1.3	2.5	0.6	△1.5

項目	前年同期対比(上段:増減額/下段:増減率)						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	△14	△6	△21	—	—	△4	△25
	△8.1	△3.5	△5.8	—	—	△1.3	△3.6
営業利益	3	△1	1	—	—	△3	△1
	—	—	—	—	—	—	—

特殊要因

- ・燃油費単価の減少:【営業利益】+1(1Q)、+5(年間)
- ・退職給付数理差異影響:【営業利益】△0(1Q)、△0(年間)
- ・退職金規定変更に伴う影響【営業利益】+0(1Q、年間)
- ・賞与支給対象期間の変更:【営業利益】+9(1Q、年間)
- ・社員制度改革に伴う費用増:
【営業利益】△0(1Q)、△1(年間)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響
【売上高】△9(1Q)、△12(年間)
【営業利益】△5(1Q)、△8(年間)
- ・特別手当支給の影響【営業利益】△2(1Q、年間)

見通し概況

コロナウイルス感染症拡大の影響は6月以降、徐々に回復傾向にある。第2四半期以降の影響は限定的なものと見通す。変動費の管理を継続することで、売上高は減少するものの、前同並みの収益を見通す

III. 2021年3月期 セグメント概況

G 重量品建設セグメント

(単位:億円、%)

1. 1Q単四半期実績

項目	2021/3期 1Q実績	前年同期対比		
		2020/3期	増減額	増減率
売上高	131	133	△2	△1.9
営業利益	15	10	4	45.9
営業利益率	11.8	7.9	—	—

1Q概況

石油化学プラントのシャットダウンメンテナンス、プラント工事の受注は好調に推移。一方で、昨年取扱いが伸びた風力発電の輸送・据付作業は低調。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一部の受注業務が延期となり減収となるも、追加工事の獲得やコスト削減により増益となる。

2. 単四半期実績推移

項目	2021/3期 実績・見通し						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	131	141	273	—	—	236	509
営業利益	15	20	36	—	—	24	60
営業利益率	11.8	14.5	13.2	—	—	10.2	11.8

項目	2020/3期 実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期
売上高	133	138	272	141	109	251	523
営業利益	10	16	26	23	11	35	61
営業利益率	7.9	11.6	9.8	16.9	10.3	14.0	11.8

項目	前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	△2	3	0	—	—	△15	△14
	△1.9	2.2	0.2	—	—	△6.0	△2.8
営業利益	4	4	9	—	—	△11	△1
	45.9	27.8	35.0	—	—	△32.0	△3.1

特殊要因

- ・燃油費単価の減少:【営業利益】+0(1Q)、+0(年間)
- ・退職給付数理差異影響:【営業利益】△0(1Q)、△0(年間)
- ・退職金規定変更に伴う影響【営業利益】+0(1Q、年間)
- ・賞与支給対象期間の変更:【営業利益】+1(1Q、年間)
- ・社員制度改革に伴う費用増:
【営業利益】△0(1Q)、△0(年間)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響:
【売上高】△8(1Q)、△12(年間)
【営業利益】△1(1Q)、△3(年間)
- ・特別手当支給の影響:【営業利益】△0(1Q、年間)

見直し概況

昨年の大規模プラントメンテナンス工事の反動、新型コロナウイルス感染症拡大による工事延期等の影響を受ける。下期以降の風力発電の取扱いは昨年並みであるが、反動が大きく、減収、減益を見込む。

III. 2021年3月期 セグメント概況

H 物流サポートセグメント

(単位:億円、%)

1. 1Q単四半期実績

項目	2021/3期 1Q実績	前年同期対比		
		2020/3期	増減額	増減率
売上高	1,017	1,145	△128	△11.2
営業利益	27	27	0	2.4
営業利益率	2.7	2.4	—	—

1Q概況

石油部門、LPガス部門における販売単価の減少、LS事業部における米中貿易摩擦、新型コロナウイルス等の影響による取扱量減少により減収となる。営業利益面は、LS事業部の売上高減少に伴う利益減、LPガス部門の販売数量及び利幅が減少するも、保険部門、物流・商品機器部門の設備・工事案件により、減益幅は圧縮され前同並みとなる。

2. 単四半期実績推移

項目	2021/3期 実績・見通し						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	1,017	983	2,001	—	—	2,331	4,332
営業利益	27	23	51	—	—	58	109
営業利益率	2.7	2.4	2.5	—	—	2.5	2.5

項目	2020/3期 実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期
売上高	1,145	1,138	2,283	1,198	1,229	2,428	4,712
営業利益	27	30	57	27	38	65	123
営業利益率	2.4	2.7	2.5	2.3	3.1	2.7	2.6

項目	前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)						
	1Q	2Q予想	上期予想	3Q予想	4Q予想	下期予想	通期予想
売上高	△128	△154	△282	—	—	△97	△380
	△11.2	△13.6	△12.4	—	—	△4.0	△8.1
営業利益	0	△7	△6	—	—	△7	△14
	2.4	△24.2	△11.8	—	—	△11.8	△11.8

特殊要因

- ・為替影響(円高):
【売上高】△0(1Q)、△0(年間)
【営業利益】△0(1Q)、△0(年間)
- ・社員制度改革に伴う費用増:【営業利益】
【営業利益】△0(1Q)、△0(年間)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響
【売上高】△14(1Q)、△66(年間)
【営業利益】△3(1Q)、△19(年間)
- ・特別手当支給の影響【営業利益】△1(1Q、年間)

見直し概況

石油・LP販売単価減の影響、並びにLSの自動車関連等輸送案件の減少の影響が大きく減収、減益の見直し。

IV. 日通グループ経営計画2023 KPI

A 日通グループ経営計画2023 KPI <コア事業の成長戦略>

項目 (売上高)	国内*			海外		
	2021年3月期 1Q 実績	2020年3月期 1Q 実績	前同 増減率	2021年3月期 1Q 実績	2020年3月期 1Q 実績	前同 増減率
電機・電子産業の取組強化	241億円	259億円	△7%	262億円	265億円	△1%
自動車産業の取組強化	121億円	168億円	△28%	157億円	180億円	△13%
アパレル産業の取組強化	39億円	38億円	3%	123億円	131億円	△6%
医薬品産業の取組強化	36億円	37億円	△2%	27億円	25億円	7%

項目 (売上高)	2021年3月期 1Q 実績	2020年3月期 1Q 実績	前同 増減率
非日系顧客の拡大 (GAM・GTA*)	83億円	67億円	25%
海上フォワーディングの拡大	16万TEU	16万TEU	1%
航空フォワーディングの拡大	17万t	20万t	△12%

* 海外2020年3月期1Q実績については訂正値

* 国内実績、KPI数値は、日本通運単体のみ。

* GAMとは、GAM(Global Account Management) のこと。GTAとは、GTA(Global Target Accounts) のこと。

Copyright © 2020 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2021年3月期 第1四半期決算説明会資料

22

(電機・電子)

・今後の見通しについて、国内では、在宅ニーズの定着などニューノーマルが継続するなかで、PC、半導体をはじめとしたメモリーや関連機器の需要は堅調であるものの、オフィスOA機器の需要は低迷する見込みであり、売上高としては前年実績1,038億円を4%程度下回ると見ている。海外では、米中関係による先行きの不透明感はあるが、国内同様にニューノーマルの生活様式を反映し、オフィスOA機器は伸び悩む一方、半導体関連の需要の伸びを想定しており、売上高は前年通期1,078億円をやや上回ってくるものと見込んでいる。

(自動車)

・自動車産業は、国内外ともに新型コロナウイルスの影響を最も強く受けた。今後の見通しについて、国内は、自動車販売が5月に底を打ち上昇基調に転じたことや、欧米での生産再開にともなう日本からの部品輸出が回復する見込みなどの好材料はあるものの、自動車販売は年計で△20%減の予測である。当面は厳しい状況で推移することから売上高は前年比で△19%減と見ている。海外についても、自動車の年間販売予測が中国を除き20%～40%程度の減少が見込まれており、アジア地域では好調を維持しているが、海外全体の売上高では前年実績680億円には届かず△9%減と見ている。

(アパレル)

・国内では、ファストファッション分野が好調でEC需要増に向けた既存業務の拡大が売上を支えた。海外では、新型コロナウイルス以前から、香港やフランスなどのデモ活動により、ハイファッションを中心としたアパレル需要が低迷、加えて、新型コロナウイルスの影響を受け、中国国内での店舗閉鎖や生産拠点の停止が発生したことによって、荷動きが停滞した。

今後の見通しについては、ハイファッション・アパレルそのものの回復に時間がかかると想定し、売上も前年実績541億円から△20%程度減少するものと重要産業の中で最も厳しい見立てをしている。

(医薬品)

・国内では、新型コロナウイルス関連の医薬品の緊急輸送需要が一時的に高まったものの、一般の外来・入院患者の減少が要因となって、医薬品全体の取扱い量も減少した。海外では同じく新型コロナウイルス関連の医薬品の緊急輸送需要があったことに加え、ジェネリック医薬品の原料供給遅れにともなう航空輸送による緊急輸送があった。

今後の見通しについては、国内外ともに新型コロナウイルスの治療薬、ワクチン等の開発にともなう医薬品輸送需要、緊急輸送需要が高まるものと想定。また、厳格な温度管理を必要とした医薬品の保管・輸送案件なども獲得しており、売上も国内では前年比2%程度、海外では8%程度伸長するものと期待をしている。

IV. 日通グループ経営計画2023 KPI

B 日本事業の強靱化戦略

主な取組項目

陸海空の融合強化

組織・人材・設備の一層のシナジー効果を追求
(営業チーム再編、拠点集約、オペレーションの
共同化を推進中)

引越事業の構造改革

戦力(下見・作業)運用機能の整備による週末需
要の取込み強化(件数拡大)及びリモート見積も
り(「リモミ」)導入による下見実施率の向上

人材のさらなる再配置

事務集約・RPA化等の事務簡素化によるさらな
る再配置(2019年度116名、2020年度約100名
の間接部門人員、さらに本社人員の削減を計画)

路線事業の効率向上

効率の良い貨物に重点をおき、差益率を向上
(長尺・異形貨物、サービス内容の見直しによる
作業性の向上、料金改定による適正運賃収受)

オフィス業務の自動化・簡素化

簡易型RPAの支店展開による事務簡素化の推進
(全社レベル+現場レベルの2WAYで推進)

支店作業会社の強化

グループ戦力として人材強化、働き方改革・法規
制対応

オペレーションの省力化・自動化

まずは半自動化をめざし、スピーディな現場展開
(推進者を配置して23業務の改善を推進)

新商品の拡販

プロジェクトBOX(7月全国展開)、Sea&Rail
(ネットワーク商品事業における陸海空融合の
商品開発)

日本事業強靱化に向けて 強かに推進していく

- アフターコロナを踏まえた業務計画(売上拡大
策とコスト削減策)の見直しを全課所に指示
- 社有戦力(人・車)を最大限活用し、外注費を
抑え、日々のコストコントロールを強化

・支店の再編については昨年10月に組織改正を実施した。日本事業統括部傘下の188支店を74支店削減114支店体制とした。

・2019年度では116名の再配置を行い、間接部門の人員削減を行った。さらに継続的な取組みとして、今年度2020年度では100名の再配置を計画している。また本社部門もこれとは別に100名の再配置を計画しており、合わせて200名の間接部門の人員削減を予定している。

・並行してオフィス業務や現場オペレーションの自動化・省力化に広く取り組んでいる。各現場に応じた具体的な案件による改善を行うために各支店に推進者を配置した。コストパフォーマンスの高い取組みとなる様に進めている。

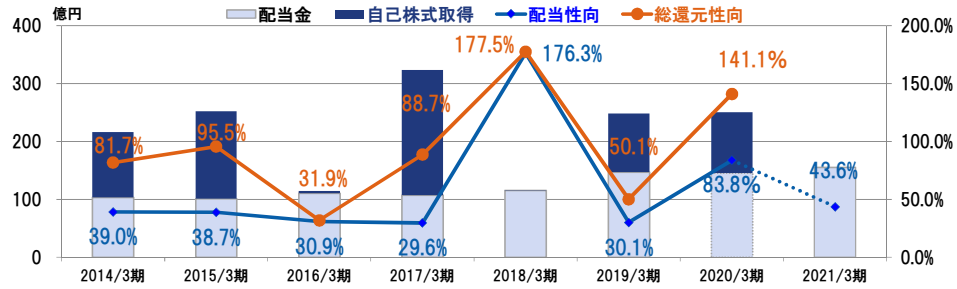
・引越事業や路線事業・積合わせ事業というネットワーク事業においても効率性・収益性の向上に向けた各種取組みを実施している。総合力を生かした新商品についても投入をしている。

V. 株主還元

A 資本政策

- ROE 10%
- 配当性向 30%以上
- 総還元性向 50%以上(2019~2023年度累計)
- 自己資本比率 35%程度

B 各種実績推移



1株当たり配当額 (年間)	10	10	11	11	120*	155	155	155
ROE	5.2	5.1	6.8	6.9	1.2	9.2	3.2	6.1

※ 2017年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株に併合いたしましたので、
2018年3月期以降の配当額については、当該株式併合を考慮した金額で記載しております。

補足資料

本資料に掲載している情報は、各項目の傾向を示しておりますが、各種決算処理を行う前のデータを使用しているため、項目ごとの合計数値は、決算数値と異なる場合があります。当事業の現況をご理解いただくための参考資料として作成しておりますので、その旨、ご承知おきください。

(補足1) 2021年3月期 第1四半期業績

A 外部環境の変化およびその他の変動要素

変動要素	連結業績への影響 (1Q)	参考
燃油費単価変動による影響	営業利益 + 10.1 億円 (費用減)	1ℓあたりの単価(2020年第1四半期) <ul style="list-style-type: none"> 軽油 : 74.94円(103.46円) ガソリン : 115.12円(136.60円) 船舶重油 : 45.58円(55.15円)
為替による影響	売上高 △ 23.4 億円 営業利益 △ 0.6 億円	年間平均為替レート※(2020年第1四半期) <ul style="list-style-type: none"> USD : 108.92円(110.20円) EUR : 120.11円(125.15円) HKD : 14.02円(14.04円) RMB : 15.60円(16.33円) <p>※「年間平均為替レート」は、参考値。 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。</p>
特別手当支給	営業利益 △ 19.8 億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : △ 15.1億円(1Q) 海外セグメント : △ 0.4億円(1Q) 警備輸送セグメント : △ 2.5億円(1Q) 重量品建設セグメント : △ 0.2億円(1Q) 物流サポート : △ 1.4億円(1Q)

(補足1) 2021年3月期 第1四半期業績

A 外部環境の変化およびその他の変動要素

変動要素	連結業績への影響 (1Q)	参考
社員制度改革に伴う増減 (同一労働同一賃金・ 定年延長影響・ チーム制の導入)	営業利益 Δ 2.5億円	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本 : Δ 2.0億円 ● 警備輸送 : Δ 0.2億円 ● 重量品建設 : Δ 0.1億円 ● 物流サポート : Δ 0.0億円
退職給付会計の 数理差異償却額の 増加	営業利益 Δ 0.9億円	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本 : Δ 0.7 億円 ● 警備輸送 : Δ 0.1 億円 ● 重量品建設 : Δ 0.0 億円
賞与支給対象期間 変更の影響	営業利益 + 46.3億円	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本 : + 35.4 億円(1Q) ● 警備輸送 : + 9.7 億円(1Q) ● 重量品建設 : + 1.1 億円(1Q)
退職給付引当金 (過年度引当不足)	営業利益 Δ 7.4億円	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本 : Δ7.4 億円(1Q)
退職金規定変更 に伴う影響	営業利益 + 3.3億円	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本 : + 3.0 億円 ● 警備輸送 : + 0.2 億円 ● 重量品建設 : + 0.1 億円

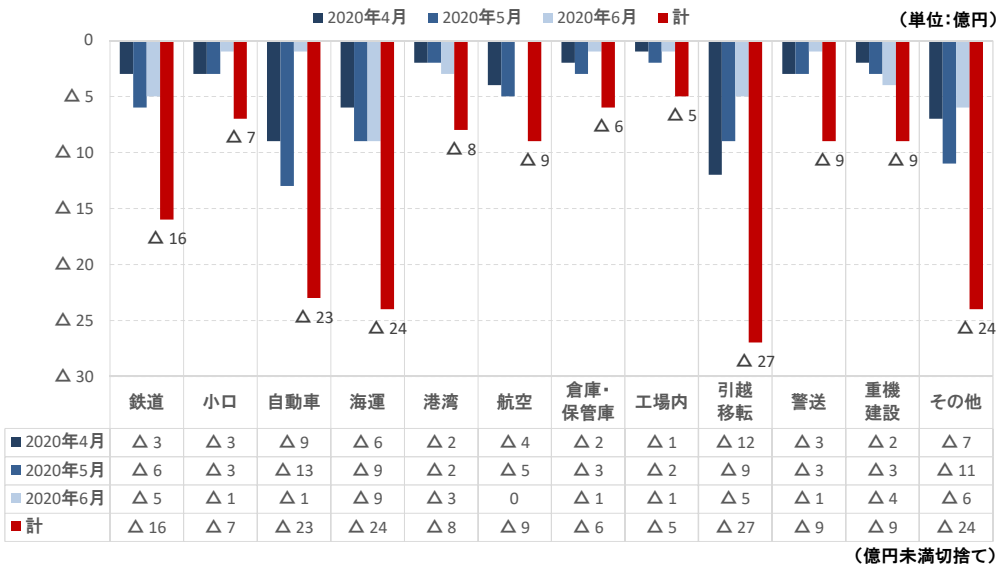
(補足1) 2021年3月期 第1四半期業績

A 外部環境の変化およびその他の変動要素

変動要素	連結業績への影響 (1Q)	参考
コロナウイルス 感染拡大による 影響	売上高 Δ 237.0億円 営業利益 Δ 92.4億円	売上高・営業利益 ・日本 : Δ 208億円・ Δ 80億円 ・米州 : + 0億円・+ 0億円 ・欧州 : Δ 2億円・ Δ 0億円 ・東アジア : + 1億円・ Δ 0億円 ・南アジア・オセアニア : + 3億円・+ 0億円 ・警備輸送 : Δ 9億円・ Δ 5億円 ・重量品建設 : Δ 8億円・ Δ 1億円 ・物流サポート : Δ 14億円・ Δ 3億円

(補足1)2021年3月期 第1四半期業績

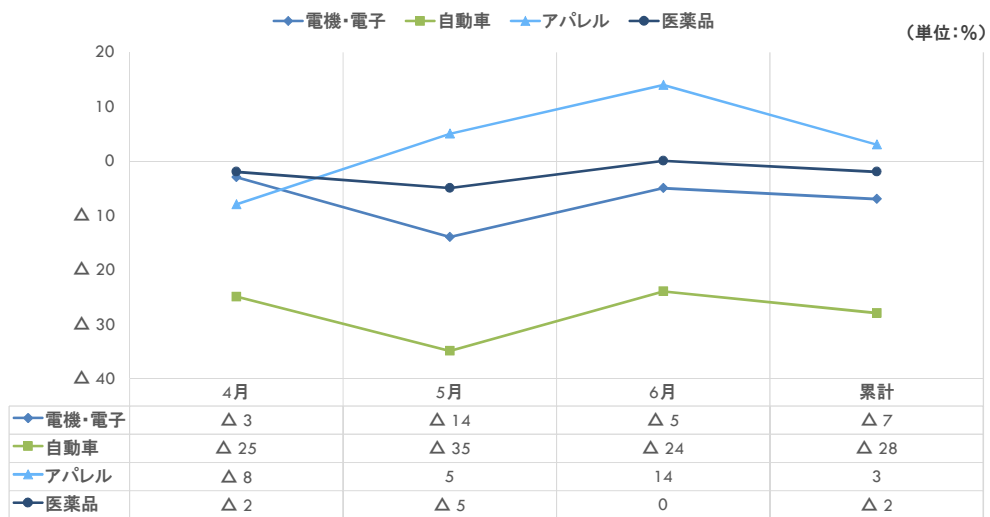
B コロナウイルス感染症拡大による事業別売上高影響(個別)



(補足1)2021年3月期 第1四半期業績

C 重点産業の取扱い推移(対前同売上高比率)






国内重点産業



(補足1)2021年3月期 第1四半期業績

D 日本・海外でのコスト削減の取り組み(2021年3月期第1四半期、以降の取り組み内容)

1. コスト削減の取り組み(変動費)

 航空輸送	 鉄道・海上輸送	 自動車	 小口輸送	 施設使用料
<ul style="list-style-type: none"> 航空利用費の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 社有戦力・固定戦力を最大限に活用 	<ul style="list-style-type: none"> 集配車の稼働台数を荷量に合わせ削減 社有戦力・固定戦力を最大限に活用 集荷作業を別業務車両の空き時間に対応し時間外を削減 	<ul style="list-style-type: none"> 低積載線区の減便 近隣ターミナルへの集約仕立 中継機能の拡充 社有戦力の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 拠点統廃合、減床による賃料削減

2. コスト削減の取り組み(固定費)

- ・ 従業員の一時帰休
- ・ 従業員の削減(海外にて採用を停止)
- ・ 一般・事務経費削減

変動費、固定費の削減により

コスト削減
効果

日通単体(2021年3月期第1四半期)

変動費率 $\Delta 2.6$ ポイント(前同対比)

(補足2)2021年3月期 業績予想

外部環境の変化およびその他の変動要素(予想)

変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	参考
燃油費単価変動 による影響	+ 39.7 億円 (費用減) ※前期 + 4.6 億円(費用減)	1ℓあたりの単価(前期年間平均) <ul style="list-style-type: none"> 軽油 : 76.30円(100.22円) ガソリン : 115.30円(134.37円) 船舶重油 : 44.90円(56.47円)
為替による影響	売上高 △ 63.1 億円 営業利益 △ 1.5 億円 ※前期 売上高 △ 151.2 億円 営業利益 △ 5.2 億円	年間平均為替レート※(前期年間平均) <ul style="list-style-type: none"> USD : 108.00円(109.05円) EUR : 120.10円(122.08円) HKD : 13.90円(13.92円) RMB : 15.30円(15.79円) <small>※「年間平均為替レート」は、参考値。 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。</small>
環境投資	営業利益 △ 5.0 億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : △ 5.0億円

(補足2)2021年3月期 業績予想

外部環境の変化およびその他の変動要素(予想)

変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	参考
過年度売上高の 過大処理訂正	売上高、営業利益 + 7.8億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : + 7.8億円(2Q)
社員制度改革に 伴う増減 (同一労働同一賃金・ 定年延長影響・チー ム制の導入)	営業利益 △ 11.4億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : △ 8.9億円 警備輸送 : △ 1.9億円 重量品建設 : △ 0.4億円 物流サポート : △ 0.1億円
賞与支給対象期間 の変更の影響	営業利益 + 46.3億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : + 35.4 億円(1Q) 警備輸送 : + 9.7 億円(1Q) 重量品建設 : + 1.1 億円(1Q)
特別手当支給	営業利益 △ 19.8億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : △ 15.1億円(1Q) 海外 : △ 0.4億円(1Q) 警備輸送 : △ 2.5億円(1Q) 重量品建設 : △ 0.2億円(1Q) 物流サポート : △ 1.4億円(1Q)

(補足2)2021年3月期 業績予想

外部環境の変化およびその他の変動要素(予想)

変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	参考
退職給付引当金 (過年度引当不足)	営業利益 Δ 7.4億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : Δ7.4 億円(1Q)
退職金規定変更に伴う影響	営業利益 + 3.3億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : + 3.0 億円 警備輸送 : + 0.2 億円 重量品建設 : + 0.1 億円
退職給付会計の 数理差異償却額の 増加	営業利益 Δ 3.9億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : Δ 3.1 億円 警備輸送 : Δ 0.7 億円 重量品建設 : Δ 0.0 億円

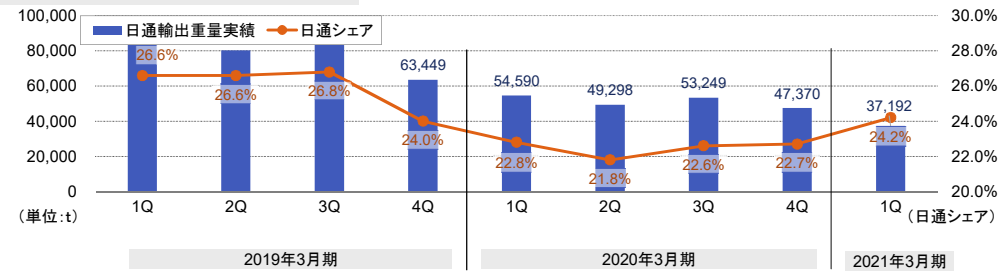
(補足2)2021年3月期 業績予想

外部環境の変化およびその他の変動要素(予想)

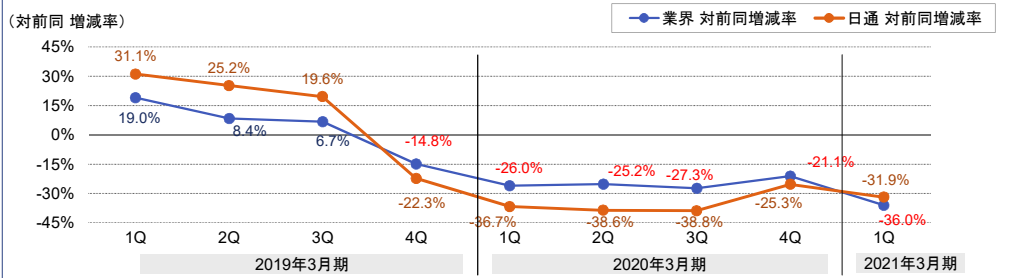
変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	参考
新型コロナウイルス 感染拡大による 影響	売上高 △ 438.5 億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 売上高 △485.1億円 営業利益 △187.3億円 米州 売上高 △28.5億円 営業利益 △11.5億円 欧州 売上高 △53.0億円 営業利益 △18.5億円 東アジア 売上高 +128.1億円 営業利益 +29.1億円 南アジア・オセアニア 売上高 +92.1億円 営業利益 +12.7億円 警備輸送 売上高 △12.6億円 営業利益 △8.7億円 重量品建設 売上高 △12.4億円 営業利益 △3.6億円 物流サポート 売上高 △66.9億円 営業利益 △19.8億円
	営業利益 △ 207.7 億円	

(補足3) 日本発 輸出航空貨物 重量動向

日本発 輸出航空貨物 重量動向



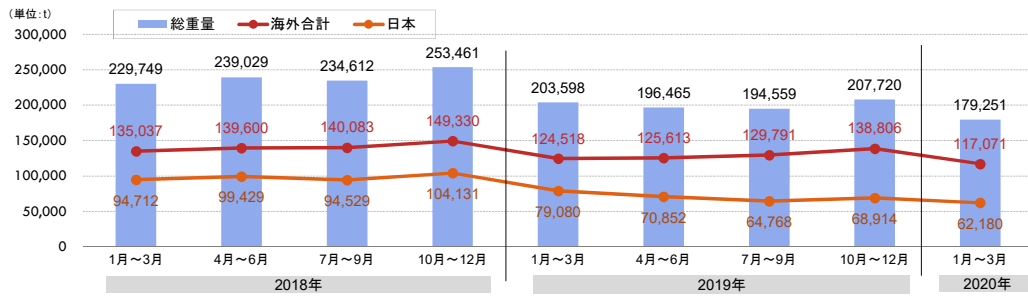
日本発 輸出航空貨物 対前同増減率推移・比較



(補足4) 輸出貨物動向(航空)

(単位: t/チャージャブル)

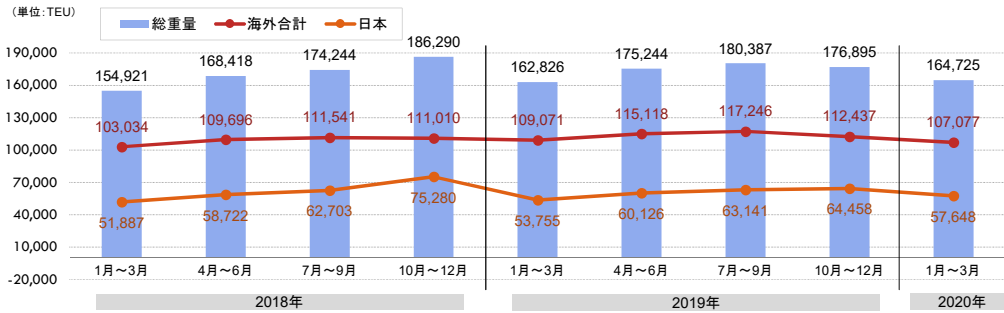
発地 地域名	2018年					2019年					2020年				
	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	年間計	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	年間計	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	年間計
日本(混載)	90,513	94,814	89,545	99,401	374,273	75,277	67,156	60,847	65,084	268,363	58,841				
日本(運送除く)	4,199	4,615	4,983	4,730	18,528	3,803	3,696	3,922	3,831	15,252	3,339				
日本総計	94,712	99,429	94,529	104,131	392,801	79,080	70,852	64,768	68,914	283,615	62,180				
米州	21,149	22,915	22,532	21,193	87,789	19,868	19,718	18,490	20,242	78,318	19,739				
欧州	29,479	30,638	31,618	37,874	129,609	29,856	29,131	29,067	33,250	121,304	24,166				
東アジア	40,761	42,084	41,122	45,847	169,814	35,258	36,883	38,381	41,208	151,730	35,441				
南アジア・オセアニア	43,648	43,963	44,810	44,416	176,837	39,535	39,881	43,853	44,106	167,375	37,725				
海外合計	135,037	139,600	140,083	149,330	564,050	124,518	125,613	129,791	138,806	518,727	117,071				
総重量	229,749	239,029	234,612	253,461	956,851	203,598	196,465	194,559	207,720	802,342	179,251				



(補足5) 輸出貨物動向(海運)

(単位: TEU)

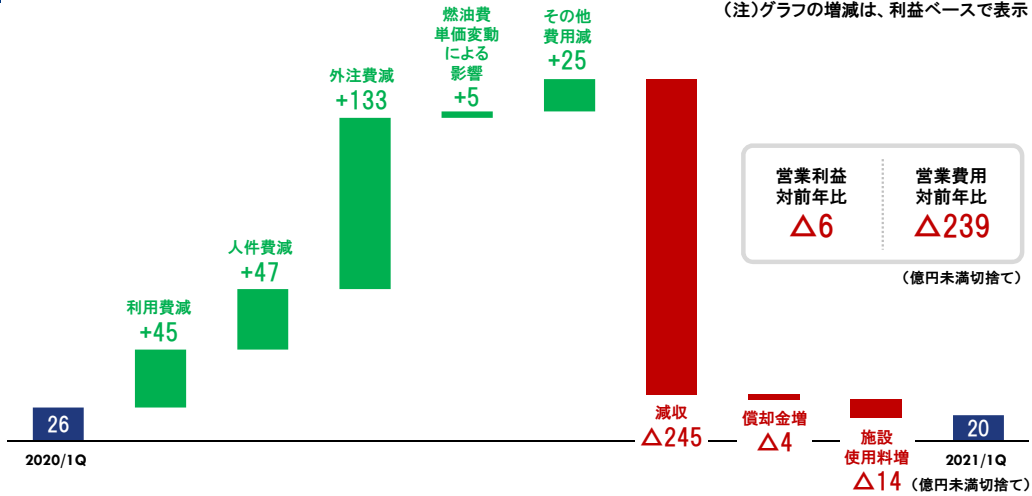
発地 地域名	2018年					2019年					2020年				
	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	年間計	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	年間計	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	年間計
日本	51,887	58,722	62,703	75,280	248,592	53,755	60,126	63,141	64,458	241,480	57,648				
米州	8,982	9,807	9,006	9,637	37,431	9,157	9,539	8,760	9,452	36,908	9,794				
欧州	11,745	13,663	11,067	11,173	47,648	10,943	12,330	11,932	12,058	47,263	13,193				
東アジア	52,653	56,702	59,401	58,141	226,898	59,122	62,103	62,232	58,079	241,536	52,033				
南アジア・オセアニア	29,653	29,524	32,067	32,060	123,304	29,847	31,145	34,321	32,847	128,160	32,057				
海外合計	103,034	109,696	111,541	111,010	435,281	109,071	115,118	117,246	112,437	453,872	107,077				
総重量	154,921	168,418	174,244	186,290	683,873	162,826	175,244	180,387	176,895	695,352	164,725				



(補足6) 個別利益増減(FY2021 1Q)

(単位:億円)

(注)グラフの増減は、利益ベースで表示



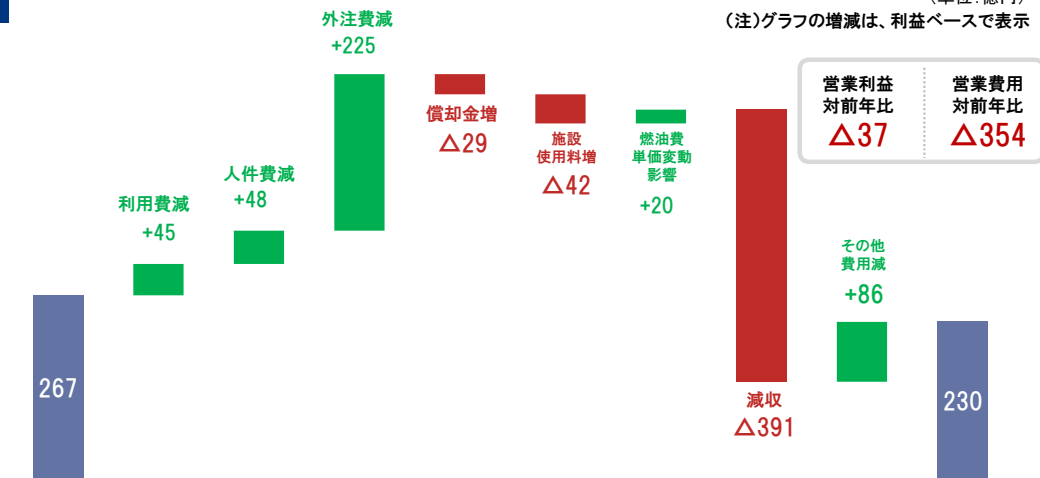
各種費用詳細(1Q単四半期) (費用ベースで表示)

人件費減 Δ47(Δ6.8%)		外注費減 Δ133(Δ11.4%)		利用費減 Δ45(Δ14.6%)	
人件費	Δ47(Δ6.8%)	備車費	Δ58(Δ11.6%)	鉄道利用費	Δ17(Δ16.8%)
		下請費	Δ79(Δ12.4%)	船舶利用費	Δ11(Δ14.0%)
		作業人材派遣費	+4(+18.4%)	航空利用費	Δ16(Δ13.2%)

(補足7) 個別利益増減(FY2021 見通し)

(単位: 億円)

(注) グラフの増減は、利益ベースで表示



2020/3

2021/3
(億円未満切捨て)

各種費用詳細(通期見通し)

人件費減 Δ48(Δ1.9%)		外注費減 Δ225(Δ4.8%)		利用費減 Δ45(Δ3.7%)	
人件費	Δ48(Δ1.9%)	備車費	Δ105(Δ5.1%)	鉄道利用費	Δ29(Δ6.8%)
		下請費	Δ139(Δ5.5%)	船舶利用費	Δ32(Δ10.0%)
		作業人材派遣費	+18(+15.1%)	航空利用費	+16(3.6%)

We Find the Way



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。